BrauBevialeの来場者は2万7000人、前回から12％超減

主催者は欧州からの参加が好調だったとする一方、来場者数と出展者数はいずれもコロナ禍前の水準を下回った

2026年11月17日（火）



主催者のYontexによると、11月10日から12日までニュルンベルクで開催されたBrauBevialeには、約2万7000人の業界関係者が来場した。2024年の前回開催から約3800人減少した。

Yontexは11月16日月曜日に発表した閉幕声明で、来場者数の減少幅は12％強だったと明らかにした。38カ国から800社を超える出展者が、製品や生産ソリューションを紹介した。それでも、出展者数はコロナ禍前の水準を大きく下回った。2019年には1,086社が参加していた。

それでもYontexは見本市を成功と評価し、展示ホールの雰囲気から、欧州の飲料業界にとってBrauBevialeが引き続き重要な交流の場であることが示されたと述べた。特に、参加者の国際性

を強調した。出展者のほぼ半数がドイツ国外から参加し、業界関係者の93％は欧州各国から来場した。また、東欧からの参加は近年の開催回と比べて増加したという。

今回のイベントでは、飲料メーカー向けの技術ソリューションや新たな事業領域に焦点が当てられた。既存の生産ラインを別の飲料カテゴリーにも活用する方法が議論され、幅広い製品を製造できるよう、設備資産をより有効に使おうとする醸造所やその他の飲料メーカーの動きを反映した。エネルギーや資源の使用量削減、生産工程の経済性向上もテーマとなった。

飲酒習慣の変化も、会議プログラムの主要テーマとなった。会期中、Getränke Newsの編集者Dirk Omlor氏は、新たな業界調査「飲料業界の25年：明日の意思決定に向けた知見」の調査結果を発表した。同氏によると、ドイツの年間ビール販売量は2025年の7800万ヘクトリットル弱から、今後10年以内に約6000万ヘクトリットルまで減少する見通しだ。

これは約25％の減少に相当する。Omlor氏は、予測される減少の主な理由として、人口動態の変化と、特に若年層における消費習慣の変化を挙げた。この調査は2000年から2025年までを振り返り、今後の展開の可能性を示している。

この予測は、過去の開催回より見本市の来場者が減るなか、醸造所、設備メーカー、包装資材サプライヤーが直面する厳しい状況に、さらなる重しを加える。ビール販売量がこのペースで縮小し続ければ、飲料業界全体で投資、生産能力、製品の多角化に関する判断に影響する可能性がある。また、見本市で各社が効率向上や、他の飲料カテゴリーに対応できるよう施設を転用する方法について議論した背景も、こうした予測からうかがえる。

主催者の前向きな評価と来場者数の減少との対比からは、市場の一部に圧力がかかるなかでも、業界がニュルンベルクのイベントに価値を見いだしていることがうかがえる。見本市には引き続き欧州各地から幅広い来場者が集まっているが、出展者数、来場者数ともに、新型コロナウイルス感染症の流行前の規模には戻っていないことを示している。

次回のBrauBevialeは、2027年11月9日から11日まで、再びニュルンベルクで開催される予定だ。